

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2793200094		
法人名	株式会社 ケア21		
事業所名	グループホーム たのしい家西三荘 (1階)		
所在地	大阪府 守口市 橋波西之町 1-6-11		
自己評価作成日	平成30年1月13日	評価結果市町村受理日	平成30年4月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2793200094-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2793200094-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成30年2月22日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

1. 【日常生活】何事にもご利用者様と職員とが一緒に行い、ADLやQOL維持向上に努め、たのしく活気のある生活を提供させていただいています。
2. 【豊富な年間行事/イベント】年間行事(初詣、節分、雛祭り、お花見、端午の節句、七夕、夏祭り秋の遠足、敬老会、クリスマス会を実施。また、お誕生日会、外出モーニング、ランチ、おやつなどご利用者様の希望を取り入れて実施しています。
3. 【医療連携】訪問診療、訪問歯科、訪問看護と連携し、ご利用者様の健康管理を行い、安心できる生活を提供しています。
4. 【研修】社内研修以外にも外部研修を受講し、職員のスキルアップをこころのケアを行っています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

ホームでは今年度理念を見直し、地域交流の意義を謳った文言を加え、理念に基づき地域との良好な関係を築き様々な地域行事に参加し、近隣高校とは文化祭に招待されたり敬老の日に手作りの小物をプレゼントされるなど相互交流を図っています。ホームでもお礼に赤飯やおはぎを利用者と共に手作りし交流のある高校生や地域に配るなど関わりを深めています。家族の意見は真摯に受けとめ、一人の意見も全体のこととして捉え職員間で検討し、ホームの行事や昼食に家族を招待し共に楽しむ機会を作り利用者の笑顔に繋がっています。管理者は「利用者も大事、職員も大事」をモットーに職員の意見を大切に聞き、意見や提案をサービス向上に活かしています。食事は利用者と職員が共に作り共に食し、外出の機会も多くあり、利用者本位の生活が実現できるよう取り組んでいます。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自施設での理念について職員からの提案により作成し、職場に貼り出し職員間で共有している。朝の申し送りに読み合わせを行っている。(毎月25日～末)	今年度は会議の中で理念を見直し、地域交流の意義を謳った文言を加えています。理念は入職時に丁寧に説明し、朝礼時に確認してから日々のケアにあたっています。職員のケアが理念の方向性に沿い利用者本位の支援となるよう努め、利用者と共に職員も楽しく過ごせるホームを目指しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設周辺の清掃、地区落語会、盆踊り、市民祭り近隣の高等学校文化祭などに参加をして交流を深めています。	ホーム周辺の清掃を利用者と一緒に行っています。自治会や地域の様々な行事に出かけたり、祭りの時にはだんじりがホームに立ち寄ってくれています。近隣高校との相互交流は利用者の楽しみとなっており、赤飯やおはぎを作った際には日頃のお礼に高校生や地域の人々に配っています。大正琴や腹話術、音楽等のボランティアの来訪も利用者の楽しみとなっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自施設で調理した赤飯・おはぎ、又畑で収穫した野菜を近隣の方々にご利用者様と職員がおすそ分けをお配りしたりして、ありのままのホームを見ていただいています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご利用者様・ご家族様・地区会長・地域包括地域の介護事業者に対して会社状況、施設の状況をお伝えしてご意見を頂き、より良いサービス向上に繋げている。	利用者や家族、地域、行政等が参加する運営推進会議は2か月毎に開催されています。会議ではホーム新聞を見てもらい様々な報告がなされる他、防災訓練への参加を呼びかけたり、参加者や近隣他ホーム管理者から情報や助言を得ています。家族には事前に案内状を出し毎回多数の参加を得ており、利用者も含め多くの意見を運営に反映させています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当地域包括だけではなく、市の窓口へも報告や相談に行っている。 地元のケアマネ会やグループホーム会に参加してご協力いただいています。	運営推進会議の議事録を市の窓口を持参しホームの現況を報告したり、制度等分からない事があれば相談に向いています。グループホーム連絡会などの会議の際には市担当者と情報交換しています。また研修案内が届いた際には出来るだけ参加するよう努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	本社入社時研修で実施。さらに毎年本社と施設内研修を実施して全職員身体拘束の意味を理解し、実践に取り組んでいる。毎月の全体会議では拘束”0”の期間を確認し合っている。	法人研修を受けホーム内で伝達研修を行い、言葉の制止等についても実例を挙げ検討しています。玄関は家族の要望もあり安全上施錠していますが、フロア入口やエレベーターは施錠せず自由に行き来が来ています。センサーマットも安全に付き添うために使用していますが職員間で繰り返し必要性を話し合っています。利用者の様子を見て散歩や日光浴に出かけ閉塞感が無いケアに努めています。	

グループホームたのしい家西三荘(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	本社入社時研修で実施。さらに毎年本社と施設内研修を実施して全職員虐待防止の意味を理解し、実践に取り組んでいる。毎月の全体会議では「言葉の虐待」にも注意を払うよう啓蒙している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内外での研修を受講している職員から内部職員への伝達をしている。また、ご利用者様で後見人制度を利用されている方がいるので実際に後見人の姿を通して学習している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約は管理者が主体となり十分な時間をとってご利用者様・ご家族様のご理解を頂いている。ご利用内容の改定等は運営推進会議などを通じて十分な説明を行い、ご理解をして頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会議、面会時にはご意見を頂ける様な声掛けをしている。また玄関には専用ポストを設置している。年一度、ご家族様に満足調査を実施し、施設運営改善に役立っている。	家族の意見は面会時や運営推進会議、家族会、満足度調査等で聞いています。一人の意見も全体の問題として捉え職員間で検討して改善しています。家族からホームの外出行事や昼食に参加したいとの意見をもらい、職員間で話し合い案内状を出して参加してもらっています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	徹底討論徹底和解の本社理念のもと、毎月フロア会議と全体会議を実施して職員の意見を聴く機会を設けている。また職員の日々の気づきを運営改善に役立っている。	会議では会社からの方針を伝えたり、職員の意見や提案を聞きサービスに活かしています。職員に食事や行事、美化等担当を任せ個々の発言の機会を確保したり、欠席者には事前に意見が無いかを聞き全職員が意見や提案を出せるよう配慮をしています。また管理者は年に数回個人面談を行い意見を聞いたり、日々の様子を見て声掛けしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本社「誰伸び制度」を全職員が理解し、やる気があればステップアップできる環境がつくられているまた、年に一度の職員希望調査で、本人の希望調査をで、本人の希望を優先して施設異動も実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内でコーチングなどの各種研修を実施。また、各職員がスキルアップし、資格習得研修等受講し易くなるように受講費用等支援制度を設けている。		

グループホームたのしい家西三荘(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者はケアマネ会や地元のグループホーム会に参加できる環境が整っている。また職員は本社研修や会議等で他地域の職員との交流が出来る。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のインテーク、アセスメントではご家族様より聞き取りが困難であれば、ご家族様や関係ケアマネ等の話を傾聴して現状把握に努める。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前のインテーク、アセスメントではご家族様が安心して話しできるような場所と時間を設定し話が尽きるまで徹底して傾聴している。またいつでも来訪時には気安く話ができるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者様のニーズをしっかりと把握するように努めている。施設内外サービスも十分ご説明して必要なものはご理解して頂く。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	施設周辺清掃から居室やフロア掃除、調理食器洗い、洗濯たたみ等ご利用者様と一緒に、「有難うございます。」感謝の言葉が飛び交う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	「ご利用者様、ご家族様に一番うれしい」この事を大切に考えて、いつでも施設に来て頂けるような雰囲気作りを行っている。イベントでは、なるべくご家族様が参加できるよう計画している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	半数以上のご利用者様にはご家族様、友人知人の定期的来訪があり、フロアや居室で寛いでいただいている。馴染みのスーパー等へは、買い物同行を実施している。	以前の同僚からの電話を取り次いだり、友人や近所の方の来訪時にはお茶を出し好きな場所で寛いでもらっています。職員が同行して自宅に帰ったり、馴染みの商店に買い物に出かける等の支援を行っています。また利用者が家族と法事や告別式に出かける際には準備を支援したり、年賀状を出す際には代筆や投函を支援するなど、利用者の関係性の継続に努めています。	

グループホームたのしい家西三荘(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活やリクレーション、イベントにおいてご利用者様の個性を大切に活かしつつお互いが支え合う関係作りを支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されたご利用者様、ご家族様には何かあればいつでも相談に来られるよう配慮している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアマネや計画作成を中心としてカンファレンスを実施して]ご利用者さまの思いや意向の把握に努める。	入居時は自宅や施設に訪問したり、見学に来てもらいこれまでの生活歴やホームでの暮らし方の希望等を聞いたり、以前のケアマネジャーから情報を得てアセスメントに繋げています。入居後は日々の関わりの中でコミュニケーションを図りながら表情やしぐさから汲み取り、カンファレンスでも話し合いながら思いの把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者様やご家族様、元ケアマネなど関係する方々のお話をよく聴くように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様の介護記録を毎日記録して現状の把握に努めている。事実に基づいて職員間で情報の共有化を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様、ご家族様介護職員、医療関係者などの意見を聴いてモニタリングを実施している。その結果を時期介護計画の見直しに反映する。	利用者や家族の希望をもとに介護計画を作成し、3か月ごとにモニタリングを行っています。計画は初回は1か月後に見直し、その後は半年ごとに評価を行い、再アセスメントした上でサービス担当者会議を開き現状に即した計画に変更しています。必要に応じ来訪時に聞いた医師や看護師の意見を計画に反映させています。日々の記録に介護計画が活かされるようフォーマットの変更を予定しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員は出勤時に必ず介護記録を確認して情報の共有を図り、状態の変化を発見して介護計画の見直しに活かしている。		

グループホームたのしい家西三荘(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	晴れた日の散歩、菜園作り、買い物。 或いは外出イベントを行い、ご利用者様本位の柔軟のある支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩を通じて地元神社への参拝、公園や商店街薬局、スーパーなどを利用している。また近接高校のの文化祭を見学したり、公民館の落語会を見物したりして楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診、特に体調変化のあるご利用者様には予定日に関係なく診ていただいている。	入居時にかかりつけ医の希望を聞いていますが、全員がホームの協力医を利用しています。月に2回協力医の往診があり、受診が必要な場合は協力病院の送迎により職員が同行して結果を家族に報告しています。日々の健康管理は週に一度来訪する看護師が行い、急変時には協力医に連絡し対応してもらっています。他にも定期的に歯科や訪問マッサージの来訪があり、希望に沿って治療を受けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週土曜日の訪問時に1週間の報告をしている。看護師は訪問医師と職員に気づいた点や変化を報告。また訪問医師の指示が関係者全員にいきわたるよう努める。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された時には、提携病院の地域連携室と連絡を取り、ご利用者様の状態の把握に努め、また担当医師より病気の現状や今後の治療方針を教えていただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の際、看取り介護の方針をご家族様に説明し、職員には看取り加算申請の旨を伝えている。本社では看取りについての研修の実施されていて、全職員が施設研修として受講している。	契約時に重要事項説明書の中でホームの看取り介護の指針を説明しています。これまで看取りの支援経験はありませんが、時期が来れば再度治療の希望やホームの出来ること出来ない事について話をして意思確認する予定です。法人でも毎年看取り研修を行っており職員は受講しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを設置し、急変時に備えている。 本件度(H30)消防隊員より受講予定(5月予定)		

グループホームたのしい家西三荘(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を実施している。 また、緊急避難先の近接高校へは文化祭などで見学を通じて顔なじみの関係を構築している。	訓練は1度は消防署立会いのもと夜間を想定し通報や水消火器を使用した初期消火、避難誘導等を行っています。事前に地域に案内状を出し運営推進会議でも参加を呼び掛けています。独自では昼間想定で避難訓練を行っており、地域の防災訓練にも今後参加を予定しています。備蓄は法人が管理して用意しています。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症実践者研修などで学んだ事を基に認知症についての施設研修を実施して「ご利用者様に寄り添う馴染みの関係」を構築できるように努める。	プライバシー保護や接遇マナー研修を定期的に行っています。職員は丁寧な言葉かけを心がけており、利用者は人生の先輩として尊敬し節度のある接し方をするよう努めています。不適切な対応があれば注意し、会議でも取り上げ具体的な言葉掛けについて話し合っています。入浴や排泄介助の際は希望があれば同性介助を行っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の押しつけではなく、ご利用者様自分で決定できるように時間を十分に取ってじっくりお話を聴かせて頂くように対応している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝はゆっくり起きて朝食をとりたい方、お風呂はできるだけ多く入りたい方、散歩が好きの方、ジュースが好きの方……それぞれのご要望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者様の使い慣れた化粧品、装飾品などご家族様に購入をお願いしたり、買い物同行支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材をご利用者様とともに、調理をしている。またご利用者様の要望を取り込み、お寿司、キノコご飯等の特別メニューに変更するなどしています。	業者のメニューに沿って食材が届き調理していますが月に2回はイベント食に変更し、利用者の希望を聞き、買い物も一緒に出掛けています。利用者は下ごしらえや味付け、盛り付け、洗い物等を職員と一緒にいき、同じ食卓に付き食事を摂っています。時には喫茶店に出かけたり、寿司などの出前を取ることもあります。敬老会やクリスマス会には家族を招待して一緒に手作りの食事を楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の作成するメニューでバランスのとれた食事を提供している。食事形態もミキサー、刻みも提供している。水分はゼラチン、スポーツ飲料等も活用し摂取し易く工夫している。		

グループホームたのしい家西三荘(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施している。義歯は職員がブラッシング・洗浄を行っている。また希望者には訪問歯科が毎週来ている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時のトイレ誘導の他、排泄訴えのサインを見つけてトイレ誘導している。	個々の排泄記録からパターンを把握して日中は職員が声掛けや誘導することでトイレでの排泄を支援しています。日々利用者が重度化する中で職員はカンファレンスを繰り返しながら個々に合った支援方法を検討し失敗することなく現状を維持できるような支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食べ物を提供したり、ヨーグルトを活用している。また町の動くを活発にする体操も取り込んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日を固定せず、入浴して頂いています。好きなご利用者様にはできる限り、入って頂けるよう配慮しています。	入浴準備は毎日行い、利用者が週に2～3回は入浴できるよう支援しています。利用者毎に湯を入れ替え10～15時頃の好きなタイミングで入浴してもらっています。ゆず湯やしょうぶ湯、入浴剤を使用したり、好みの石鹸やシャンプー等で楽しく入浴できるよう支援しています。拒否が見られる利用者には職員が交代したり、声掛けに工夫して無理のない入浴に繋げています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	散歩やレクを実施して日中の活動量を増やし、夜間良く眠れるように工夫しています。また、居室で休息したいご利用者様には、いつでもできるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者様の薬情報を個別に管理し、いつでも閲覧できるようにしています。また薬剤師が来たときに、その都度職員から薬についての質問ができるよう体制を整えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩、料理、洗濯干し、取り込み、歌、書道、パズル、将棋、絵手紙などご利用者本位の支援をしています。		



グループホームたのしい家西三荘(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	清掃、花の水やり、菜園、散歩、外出等を日課として取り込んでいます。また、地域とのふれ合いを考慮し、喫茶モーニング、買い物、ドライブ等ご希望に応じて実施しています。	気候の良い時期は近隣を散歩し、食材や嗜好品の買い物に行っています。行事として初詣や花見、秋の遠足には家族も誘って一緒に出かけています。個別支援にも力を入れ、利用者の誕生月には職員と一緒に外食に出かけています。行けない日は菜園や玄関先の草花に水やりをしたり、ベンチに座って外気浴する等、五感刺激に努めています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設用の買い物以外にご利用者の預り金を使った個人買い物のある。職員と外出同行しお金をだして買い物を楽しんで頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月の書道、隔月の絵手紙等を実施し、また、毎月「日々の便り」「月間予定表」「西三荘便り」でご利用者様の様子等を発信しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには季節に応じた花を飾り、壁飾りは月々の変化が感じられるよう配慮しています。作品作りはご利用者様と職員が協働します。5S活動を展開し、常に清潔さに努めています。	玄関や菜園に野菜や花を植え、雛人形や5月人形、フロアに貼り絵のカレンダーを飾り、利用者が季節を感じる事が出来るよう支援しています。ベンチやソファ、椅子を各所に配し、利用者が好きな場所で寛ぐことが出来るよう配慮をしています。またカーテンで光を調節し、毎朝換気し空気清浄機や加湿器を使用し居心地よく過ごせる工夫をしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにソファを置いて、一人で過ごせるスペースを確保し、活用して頂いています。また、食席の配置は気の合うご利用者様等を配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真、額縁、文机や仏壇、タンス等入居前に使っていた愛用品を持ってきていただいています。	入口に絵の得意な職員が描いた利用者の似顔絵を貼り、自室が分かる様工夫しています。利用者は自宅より馴染みのタンスや収納棚、仏壇、テレビ等を持参しています。希望があれば畳を敷いて布団で休むこともでき、畳ベッドを利用している方もいます。家族の写真や誕生日に家族から送られた花束を好みの場所に飾るなど、思い思いの居室作りがなされています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアの明るさの調整ができるように設計されている。調理はITを使用して安全第一を考えています。調理場も広く取り、ご利用者様と共同で作業できるようになっています。		